ベコ太郎

共に創り、つなぐ、稲作情報 vol.5

南会津農林事務所　農業振興普及部　Tel　62-5262
南郷普及所　Tel　72-2243

令和５年７月６日

http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutujyouhou.html

この資料は、令和５年７月１日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

☆病害虫対策を徹底しましょう！
☆出穂前後の水管理を徹底しましょう！
☆幼穂長から穂肥の時期を判断しましょう！

1　天気予報（6月29日仙台管区気象台発表の１か月予報　期間：７月１日～７月30日）

・平均気温は高い、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込みです。期間を通して、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

2　生育情報

・６月20日時点での生育は概ね平年並みです。

＜令和５年南会津水稲作柄判定ほ生育状況＞

品種名	移植日	調査日	草丈（cm）	茎数（本/㎡）	葉齢
里山のつぶ（下郷）	5月22日	6月20日	27.5(-2.6)	126(-63)	5.2（-1.3）
ひとめぼれ（田島）	5月23日	6月20日	32.7(-0.6)	209（-12）	6.6（±0）
コシヒカリ（只見）	5月14日	6月20日	29.5（-2.1）	255（+60）	5.9（±0）

※括弧内は、平年値（過去５年平均）との差を表示しています。

3　斑点米カメムシ対策

（1）斑点米カメムシについて

斑点米カメムシ類は**６～７月に高温が続くと増殖しやすく、８月に高温少雨が続くと水田へ飛来します。1,000粒に２粒斑点米があると２等米に落等してしまいますので、**適切な防除により、斑点米の発生を防ぎましょう。

南会津地域で出穂期前後に多く発生が見られるのは、以下の３種です。

・アカスジカスミカメ（４～６㎜）

●はねに赤色の太い縦条がある

・アカヒゲホソミドリカスミカメ（４～６㎜）

●赤いヒゲがあり胴体は細長の淡い緑色

・ホソハリカメムシ（約１㎝）

●体色は茶色

（２）防除

①防除のタイミング

月	７月			８月		
旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ（ひとめぼれ・田島の平年）	幼穂形成期		減数分裂期	出穂期（8/5頃）	乳熟期（8/12頃）	糊熟期（8/19頃）
注意事項	出穂10日前まで(7/26頃)				薬剤防除	薬剤防除（必要に応じて）
草刈について	草刈り徹底期間			草刈禁止（中断）期間		

②７月：除草・・・えさ（イネ科、カヤツリグサ科の雑草の穂）が出る前に行います

＜水田内の除草＞

・斑点米カメムシ類の侵入を助長するヒエやホタルイなどの雑草を残さないよう、発生している草種に応じた除草剤を散布します。

＜畦畔除草＞

・**出穂 10 日前までに草刈りを終え**、その後は稲のもみが固くなる**出穂３週間後頃まで草を刈らないでください**。

③８月：殺虫剤散布

＜粉剤・液剤（散布剤）の場合＞

・**乳熟期（出穂期の７～10 日後**・実を潰すと白い汁が出る）に、穂にかかるように散布します。

・その後、多発が予想される場合は７日後に追加散布を行います。

薬剤名	使用量（１０ａあたり）	使用時期	使用回数
キラップ粉剤ＤＬ	３～４kg	収穫14日前まで	２回以内
スミチオン乳剤	1,000倍(60～150ℓ)	収穫21日前まで	２回以内

＜粒剤（水面施用剤）の場合＞

・**穂揃期（出穂し穂が揃う頃）**に、湛水状態の水田に均一に散布し、その後**７日間以上は止水管理**します。

・その後、多発が予想される場合は散布剤による追加防除を行います。

薬剤名	使用量(10ａあたり)	使用時期	使用回数
スタークル粒剤	３kg	収穫７日前まで	３回以内
ダントツ粒剤	３～４kg	収穫７日前まで	３回以内

４　病害対策

（１）いもち病対策

・箱処理剤を使用したほ場でも穂いもち予防を行います。

・いもち病が発生した圃場では、**早急に治療剤で防除します。**

・高湿度で気温が低い年にいもち病の発生が多くなります。また、窒素多肥はいもち病の発生を助長します。

	薬剤名	使用量 （10ａあたり）	使用時期	使用 回数	使用 方法
予防剤	コラトップ 粒剤５	３～４kg	葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	２回 以内	散布
	ビーム 粉剤	３～４kg	収穫７日前まで	３回 以内	散布
	フジワン 粒剤	３～５kg	葉いもちに対しては初発7～10日前 穂いもちに対しては出穂10～30日前 （ただし、収穫30日前まで）	２回 以内	湛水 散布
治療剤	ノンブラス 粉剤ＤＬ	３～４kg	収穫７日前まで	２回 以内	散布
	ブラシン フロアブル	1,000倍 （60～150ℓ）	収穫７日前まで	２回 以内	散布

（２）稲こうじ病対策

・昨年発生したほ場、または天気予報などで穂ばらみ期に降雨が予想される場合には、出穂前に薬剤防除を実施します。

・稲こうじ病は穂ばらみ期に低温、降雨が多い場合や窒素過多のほ場で発生しやすい病害です。

薬剤名	使用量 （10ａあたり）	使用時期	使用 回数	使用 方法
モンガリット粒剤	３～４kg	出穂21～14日前 （ただし、収穫45日前まで）	２回以内	湛水 散布
Ｚボルドー 粉剤ＤＬ	３～４kg	出穂20～10日前まで	－	散布

※フジワン粒剤は稲こうじ病に登録があります。

（３）紋枯病対策

・７月下旬～８月中旬にほ場ごとの発生程度を確認し、必要に応じて薬剤防除を実施してください。

・紋枯病は**①一度発生したほ場、②28～32℃の高温・多湿**で発生しやすくなります。

薬剤名	使用量 （10ａあたり）	使用時期	使用 回数	使用 方法
リンバー粒剤	３～４kg	出穂30～10日前 （ただし、収穫30日前まで）	２回以内	散布
モンカットファイン 粉剤２０ＤＬ	３～４kg	穂ばらみ期～穂揃期 （ただし、収穫14日前まで）	３回以内	散布

5　水管理

（１）出穂前

・中干し後初めて水を入れる際は、根腐れを防止するため走り水程度にし、その後は**間断かん水**とします。

・概ね 17℃以下の低温（気温）時には、不稔の発生を軽減するため、**深水管理を行います。**

幼穂形成始期(出穂前 25 日前後)	水深：５～10ｃｍにて管理
減数分裂期～穂ばらみ期(出穂前 15～５日前後)	水深：15～20ｃｍにて管理

（２）出穂後

・出穂期の水不足は不稔を招くので**出穂前後３日程度は湛水管理**します。その後**間断かん水にて管理**します。

・早期落水は、乳白粒等の発生による品質低下の要因となるので、落水は出穂後 30 日以降（９月上旬）を目安に行います。

6　穂肥

（１）施用時期・・・主茎をカッター等で縦に二つに割き幼穂長を確認しましょう。

品種名	穂肥施用時期	平年の出穂期	穂肥施用目安	穂肥適期の幼穂長
里山のつぶ（下郷）	出穂20日前	8/2～8/10	7/13～7/21	2 mm
ひとめぼれ（田島）	出穂20日前	8/3～8/9	7/14～7/20	2 mm
コシヒカリ（只見）	出穂18～15日前	8/9～8/12	7/22～7/25 (18日前で計算)	10～20mm

※上表の「平年の出穂期」は、作柄判定ほの過去５年間における出穂期の幅を示しています。

（２）穂肥量・・・茎数、葉色を見て決めます。

・チッソ成分１～２kg/10 a を限度に施用します。

・出穂５日前以降の施肥（実肥）は、食味が低下するため行わないでください。

★穂肥を施用したら必ずいもち病対策を実施します。

【農作業中の熱中症に注意しましょう！】

県内では毎年５月上旬から農作業中の熱中症が発生しています。熱中症を正しく理解し、予防に努めてください。７月～８月は特に注意が必要です。

【農薬危害防止運動実施中！6/10～9/10】

農薬の安全かつ適正な使用、使用中の事故防止及び環境に配慮した農薬の使用等を推進するため、福島県では、毎年 6 月 10 日から 9 月 10 日までの 3 か月間、農薬危害防止運動を実施しています。